



みどりの里

宇奈月小学校だより
10月号・第6号
令和6年10月18日

目指す子供像 うんとかんがえる子 なかよくする子 つよいかからだの子 きれいなこころの子

黒部市立宇奈月小学校 〒938-0862 黒部市宇奈月町浦山205番地1

URL <http://www.tym.e.ed.jp/>

TEL(0765)65-2288 FAX(0765)65-2800

E-mail unazuki-es@tym.ed.jp

臨機応変に動くことができる子供たち ～運動会の姿より～

校長 齊 木 裕

9月23日（月）に第19回運動会がありました。あいにくの雨で、前半は体育館で運動会を始めました。子供たちは、体育館での動きを、あまり想定していなかったのですが、グラウンドでの練習をイメージしながら何の迷いもなく見事に競技をすることができました。

特に素晴らしかったのは、応援です。子供たちは、赤白に分かれて応援をします。しかし今回は、赤白に分かれるスペースがないため、赤白一緒に次のような応援を始めました。

「フレ、フレ、1年生」

「がんばれ、がんばれ、2年生」

「ファイト、ファイト、3年生」

とかけ声をかけていました。きっととっさに判断をし機転を

きかせたのだと思いました。赤白両応援団が協力して応援をしている姿を微笑ましく思いました。雨が上がったので運動会の後半は、外に出て、「80M走・100M走」「綱引き」「黒部踊り」「閉会式」を行いました。外では、応援団が赤白に分かれて、「フレ、フレ、赤組」「がんばれ、がんばれ、白組」と力強い応援をしていました。その場で、臨機応変に動くことができる子供たちに感心しました。

この日の運動会を振り返ったとき、子供たちの「生きる力」を感じました。文部科学省のリーフレットには、「生きる力」について下記のように書かれています。



学校で学んだことが、子供たちの「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしい。
これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。
そして、明るい未来を、ともに創っていききたい。

このように学校での学びが、家庭生活でも活用され、反対にご家庭でのいろいろな経験が、学校生活に生かされていると思います。学校・家庭・地域が連携しながら、子供たちの「生きる力」を育てていければと考えています。

P T A執行部、保護者、地域の皆さま、天候が悪い中最後まで応援、準備、後片付けにご協力いただき大変感謝しています。今後とも、本校の教育活動にご理解・ご協力をお願いします。



令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

本年度の全国学力・学習状況調査は、4月18日、全国の小学校第6学年及び中学校第3学年の児童生徒を対象に実施されました。本校でも、6年生26名が参加しました。

この調査は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態を明らかにすることにより、今後の指導内容・指導方法の改善や生活指導等に役立てることを目的としています。内容は①教科に関する問題（国語、算数・数学）と、②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれています。

結果を受け、本校の児童の優れた点や、課題となる点を見直し、今後の学習指導、学習習慣の改善に生かしていきたいと思います。また、6年生には個人票、調査問題用紙を配付します。

なお、今回6年生が取り組んだ調査問題や正答例は、文部科学省、国立教育政策研究所のホームページ（今号に添付したQRコード）からご覧いただけます。

国立教育政策研究所

令和6年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について

<https://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>



生活や学習環境に関する児童質問紙調査より

（○肯定的な回答の割合が高かった項目 ▲課題がみられる項目）

★ 基本的な生活習慣

子供たちが意欲的に学習に取り組むためには、健康な体と健全な心が必要です。その子供たちの体と心を支えるものは、規則正しい生活習慣です。

○朝食を毎日食べている。

○毎日、同じくらいの時刻に起床している。

▲毎日、同じくらいの時刻に就寝している。

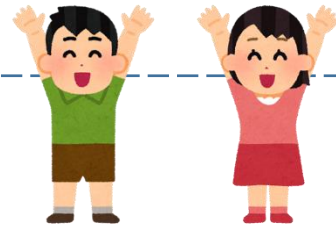
ほぼ同じ時刻に寝て、睡眠時間をしっかりと確保することで生活リズムが整います。睡眠時間（8時間以上）をとり、望ましい生活習慣がしっかりと身に付けているようです。一方、就寝時刻が遅れると、起床時刻や朝食の摂取等、次の日の生活にも影響を及ぼすことがあります。さらに、睡眠時間の不足は、体の不調だけでなく、学習意欲や気力、集中力、感情のコントロールの低下にもつながります。各家庭でも今一度見直す機会を設けましょう。

▲普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをするか。

本校には、放課後も週末もスポーツをしている子供がいます。反面、放課後にゲームやインターネットを2時間以上したりしている子供の割合もかなり高くなっています。長時間のテレビ視聴やテレビゲームは、視力の低下だけでなく、睡眠の質にも影響します。

なお、本校では、毎週火曜日にノーゲーム・メディアコントロールの取組を行っています。自分の生活をコントロールできるようになることを目指し、テレビやゲーム等のメディアに接する目当ての時間を自分で設定し、守るように呼びかけています。ぜひ親子で家庭でのルールづくりについて話し合ってみましょう。

★挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等



- 自分には、よいところがあると思う。
- 友達関係に満足している。
- ▲自分と違う意見について考えるのは楽しい。
- ▲将来の夢や目標をもっている。

子供たちが将来の生き方に対する意欲を高め、自己をよりよく生かす方法を探し求めることができるように、興味・関心、能力・適性等についての自己理解を深める指導を工夫していきたいと思います。

- ▲いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。

本校の子供たちは、規範意識が高く、自分のよさを自覚したり、認められていると感じたりしながら、自己有用感をもって学校生活を送っています。学習は友達との学び合いの中で成立していきます。互いのよさを認め合う良好な人間関係の中で話し合い活動を充実させ、のびのびと学習に参加できるようにより一層努めていきたいと思います。いじめは、子供の心と体に、また、その成長に大きく影響を及ぼす重大な人権侵害事象であり、学校・家庭・地域が協働し、子供と大人「みんな」が一丸となって取り組むべき教育課題です。軽い遊びや悪ふざけ、冗談のつもりでも、いじめられる側の苦しみ、痛みは深刻であることを理解し、いじめることは、人間として決して許されないことであり、いじめをはやし立てたり傍観したりすることも同じである、ということを家庭の中できちんと話し合ひましょう。

- ▲人の役に立つ人間になりたいと思う。
- ▲自分と違う意見について考えるのは楽しい。

学校では、これまでも自分のよさを自覚したり、認められていると感じたりしながら、自己肯定感や自己有用感をもって学校生活を送ることができるように、一人一人の可能性を積極的に見付け、学校生活における様々な学習や活動、行事等において、できるだけ一人一人の活躍の場を設けるようにしてきました。今後もより一層の工夫や努力を重ねていきます。

学力の土台は心と体

元気な体と健全な心が学習に前向きに取り組むための基礎となります。学校では、「信頼される学校づくり」や「分かる・できる・楽しい授業づくり」に一層努力していきます。

各家庭でも、これまで同様、お子さんへの励ましに努めていただき、家庭学習の習慣化、望ましい生活習慣の形成にご協力をお願いいたします。

★学習習慣、学習環境等

○土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間勉強をするか。

▲自分で学び方を考え、工夫して学習している。

▲学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日1時間以上勉強している。

学習した内容を子供が自ら見直し、計画を立てて学習を進め、次の学習へつなげることが課題と考えられます。今後は、学習指導において、子供が自ら学習内容を見通し、振り返る場面を充実したり、タブレット端末を効果的に活用して、個に応じた学びの保障や、協働した問題解決の場面を設定したりするなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進していきます。

家庭学習の目安となる時間は、学年×10分の学習に取り組むように設定し、本校でも、目安となる時間を達成できるように子供への指導と励ましをしています。

学校では、家庭学習「こつこつノート」で復習することができるように、自主学習の内容についてヒントを示しています。また、タブレット端末を使って、児童が自ら目標を立て、自分のペースで進めていくことができるAIドリル（eライブラリ）も導入しています。毎日宿題にしっかりと取り組み、学年の目当ての時間の学習ができるよう、ご家庭でも励ましの声かけをお願いします。

★地域や社会に関わる活動の状況等

○地域や社会をよくするために何かしてみたいか。

日頃から地域を含め、自分の周りの人との関わりをもつことが多く、その中で世の中のために頑張りたいと思っている姿が感じられます。また、物事を最後までやり遂げてうれしかったというような成功体験をしていることが、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」という結果につながっていると思われます。

★ICTを活用した学習状況

○ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができるか。

○ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなるか。

○ICT機器を活用することで、友達と協力しながら学習を進めることができるか。

タブレット端末の導入に伴い、子供の興味・関心を伴う授業をより多く展開できるようになりました。子供も、学習支援クラウド「ロイロノート」等を活用しながら、他の友達と考えを交流し一緒に学ぶなど、学習の幅も広がってきています。実際、多くの子供が、タブレット端末を活用することで、学習に対する意欲や授業に対する理解度が増していると考えられます。

今後もICT機器の効果的な活用を進めて授業を工夫し、より一層子供の学びが深まるように努め、教職員自身の研鑽も積み重ねていきます。

★主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができているか。
- 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいるか。
- ▲学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか。

本校では、「関わり合いを通して知識を広げ、よりよい生き方を考える子供の育成」を目指して授業改善に取り組み、互いに認め、関わり合う学習活動を大切にしています。学習は、友達との学び合いの中でよりよく成立していきます。また、学校生活の中で、友達のよいところを見付けて、自分の言葉で伝えることができる『あさがおさいたタイム』を帰りの会で設定しています。毎日の授業の中でも「あさがおさいた」を進め、話す機会を増やすだけでなく、どのように話したらよいのかというスキルを身に付ける指導も行っています。そして、互いのよさを認め合う良好な人間関係の中で話し合い活動を充実させ、のびのびと学習に参加できるように、より一層努めていきたいと思っています。

★総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳

- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるか。
- 学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているか。
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいるか。

各質問内容は、総合的な学習の時間や道徳の授業だけでなく、日々の授業の中でも取り組んでいる内容です。それらの時間や授業が効果的に相互作用している結果だと考えられます。今後も、学級で充実した話し合いができる環境整備を行い、子供たちが課題解決に向け、あきらめずに取り組む姿勢を育てていきたいと思っています。

教科ごとの状況と改善点

① 国語科について 【 】は学習指導要領の内容と設問番号



○優れている点

- 1 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。
(知識・技能・・・我が国の言語文化に関する事項)
- 2 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思考・判断・表現・・・書くこと)
- 3 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知識・技能・・・情報の扱い方に関する事項)
- 4 人物像を具体的に想像することができる。(思考・判断・表現・・・読むこと)

●課題が残る点

- 1 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる。
(思考・判断・表現・・・話すこと・聞くこと)【国語 問題番号1一】
・学校の取組を紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する。
- 2 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。
(思考・判断・表現・・・話すこと・聞くこと)【国語 問題番号1三】
・運動について書かれたパンフレットのページを読んで分かったメモの空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する。
- 3 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。
(知識・技能・・・言葉の特徴や使い方に関する事項)【国語 問題番号2三ア】
・【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す。(きょうぎ)
- 4 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。
(思考・判断・表現・・・読むこと)【国語 問題番号3二(1)】
・「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話すか迷っていると考えられるところとして、適切なものを選択する。

【学習指導に当たって】

文や文章の中で、漢字を正しく使う 《知識・技能》

漢字の学習では、読み方や字形を練習するにとどまらず、学習感想や振り返り、日記を書く場面等、漢字を使って文や文章を書く機会を増やすようにする。その際には、漢字の意味を考え、適切な漢字を用いることを意識することで、漢字を正しく使う力を身に付けることができるようにする。

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりする 《思考・判断・表現》

目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討するために、話合いの目的や方向性、聞き手の求めていることを知り、それらを踏まえて、展開や内容を想定し、伝え合う内容を検討する場面を設定する。その際、集めた材料を聞き手が知りたい内容と自分が伝えたい内容に整理したり、目的に応じて優先順位を考えたりできるように指導する。また、必要に応じて提示する資料を検討するよう促す。

目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討する 《思考・判断・表現》

目的や意図に応じて、話題を決め、伝え合う内容を検討するためには、自分（話し手）が伝えたいことを明確にするとともに、相手（聞き手）の求めていることに応じて集めた材料をどのように整理すればよいかを考えるように指導する。その際、話す内容に合わせて即興的に分かりやすく伝えられるよう、必要に応じて提示する資料を用意したり、子供が様々なアイディアを出しながら伝え合う内容を検討したりできるように助言していく。また、学習を振り返る場面では、様々な気付きが出されることが想定されるため、タブレット型端末を活用する、板書にまとめる、掲示物にまとめて教室に掲示するなどの方法によって、子供の気付きを価値付け、学級全体の学びとして広げられるようにしていく。

登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える 《思考・判断・表現》

低学年においては、挿絵を手掛かりにして読んだり、役割を決めて演じたりすることなどを通して、内容の大体を捉えることができるようにする。また、中学年においては、場面と場面のつながりを意識したり、登場人物の気持ちの変化に着目したりすることなどを通して、複数の叙述を基に登場人物の行動や気持ち等について捉えることができるようにする。さらに、高学年においては、登場人物の行動や会話等について、登場人物相互の関係と結び付けながら想像したり、場面の様子と登場人物の心情の関係に着目したりすること等を通して、描写を基に登場人物の相互関係や心情等について捉えることができるようにする。このように系統的に指導していく。

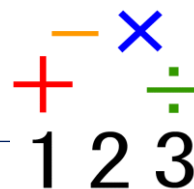
その他 《学習全般》

- ・ 書く相手や目的に応じて自分が書いた文章を読み直し、整えることができるような学習を取り入れていく。その際、文書作成ソフト等を用いるなど、ICTのよさを生かしながら読み手にとって分かりやすい文章にしたり、自分の伝えたいことをより明確にしたりすることを意識しながら、文章の構成を推敲できるように指導する。
- ・ 新聞を読んだり、読書をしたりすることにより、活字に触れる機会を増やすように指導する。

《国語に関連する内容の児童質問紙調査から》

「国語の勉強は好きだ」「国語の勉強は大切だ」「国語の授業の内容はよく分かる」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」という面が優れています。一方、「新聞を読んでいる」という面には課題が残ります。今回、新聞を読む頻度と平均正答率には相関関係があると認められています。新聞には多彩な記事が載っており、たくさんの情報を得ることができるなど、多くのメリットがあります。毎日少しずつでも、新聞に目を通す習慣を付けていきたいものです。各教室にも新聞を配付しています。子供が新聞を読む機会を増やしていきたいものです。

② 算数科について 【 】は学習指導要領の内容と設問番号



○優れている点

- 1 直方体の見取図について理解し、かくことができる。(知識・技能)
- 2 角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できる。(知識・技能)
- 3 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できる。(思考・判断・表現)
- 4 示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できる。(思考・判断・表現)

●課題が残る点

- 1 問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができる。(知識・技能・・・数と計算)
【算数 問題番号1】(1)
 - ・問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ。
- 2 直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解している。(知識・技能・・・図形)
【算数 問題番号3】(2)
 - ・円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ。
- 3 球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができる。(思考・判断・表現・・・図形)
【算数 問題番号3】(3)
 - ・直径 22cm のボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く。
- 4 除数が小数である場合の除法の計算をすることができる。(知識・技能・・・数と計算)
【算数 問題番号4】(1)
 - ・ $540 \div 0.6$ を計算する。
- 5 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。(思考・判断・表現・・・変化と関係)
【算数 問題番号4】(3)
- 6 円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができる。(知識・技能・・・データの活用)
【算数 問題番号5】(1)
 - ・円グラフから、2023 年の桜の開花日について、4 月の割合を読み取って書く。

【学習指導に当たって】

問題場面を図に表し、数量の関係を捉え、式に表すことができるようにする 《知識・技能》

問題場面の数量の関係を捉え、式に表すために、問題を読み、「多い」のだから加法、「少ない」のだから減法のように形式的に立式するのではなく、問題場面を図に表し、その図と問題文のそれぞれの数量の関係を比較し、捉えることができるようにする。

円周率が、演習の長さの直径の長さに対する割合であることを理解できるようにする 《知識・技能》

指導に当たっては、例えば、身の周りにあるいくつかの円の形について円周の長さの直径の長さに対する割合を調べる活動を取り入れる。実際にいくつかの円について直径の長さや円周の長さを測定するなどして、「円周の長さ÷直径の長さ」を計算するといつでも円周の長さが直径の長さの約 3.14 倍になっていることに気付くことができるようにする。

除数が小数である場合の除法の計算をすることができるようにする 《知識・技能》

除数が小数である場合の除法の計算について、整数の場合の計算の意味や計算の仕方を活用して、計算をすることができるようにする。指導に当たっては、筆算による計算の仕方を形式的に指導するだけではなく、除法に関して成り立つ性質を活用して、 $540 \div 0.6$ の商が $5400 \div 6$ の商である 900 と等しいことを理解できるようにする。

円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるようにする 《知識・技能》

円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるようにするために、円グラフの特徴について話し合ったり、割合の読み取り方を説明し合ったりする活動を設定する。

図形を構成する要素を見だし、

それらを活用して体積を求めることができるようにする 《思考・判断・表現》

指導に当たっては、問題番号 3 (3) のように、球の形をしたボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べる活動が考えられる。その際、立方体を真上や真横から観察するなどして、球はどこから見ても同じ円であることや、その円の直径の長さは球の直径の長さと等しく、立方体の一辺の長さと等しいことを理解できるようにする。

また、立方体の体積は、一辺の長さを測ることによって、(一辺) $\times$ (一辺) $\times$ (一辺) の式で求められることを理解できるようにすることも大切にしていこう。

二つの数量の関係に着目し、

場面に応じて速さの比べ方を考察できるようにする 《思考・判断・表現》

指導に当たっては、例えば、二人の歩く速さの比べ方を考察する活動が考えられる。その際、道がまっすぐであることや曲がっていることに関係なく、二人の歩いた道のりが等しい場合はかかった時間で速さを比べることができることを説明するなど、場面や目的に応じて、単位時間当たりに移動する長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間として速さを捉え、速さを比べることができるようにする。

その他 《学習全般》

- ・ 友達の考えを説明したり、追体験する場を設定し、多様な考えのよさに触れたりすることができるようにする。1つの考えで立ち止まり、友達はどうのような考え方なのか全体で共有する場を設けることで、それぞれの考えを理解することができるようにする。
- ・ 問題文の全体を音読し、丁寧に読み取る習慣を付け、何を問われているのか確認をしながら学習を進めるようにする。
- ・ タブレット端末を積極的に用いながら、書く時のルール(算数の用語を用いる、最後に結論を書く、式や言葉、矢印を使って書く)や、書き表し方の方を示し、式の意味を説明したり、言葉で表現したりする学習に力を入れる。

《算数に関連する内容の児童質問紙調査から》

「算数の勉強は好きだ」と感じている児童は多くありませんでした。また、「算数の授業の内容はよく分かる」「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」「算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている」という面に課題が残ります。算数の学習内容をしっかり身に付け、それらを既知の知識や技能と関連付けたり活用したりする中で、効率的に問題を解決しようとしたり、日常生活の中で効果的に活用したりしながら、算数の学習を楽しむことができるように、今後も指導を工夫していきたいと思います。